

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	汪 達紘
所属機関名	生命科学部・生物科学科
職位	教授
在籍年	10 年

教育の責任

生命科学部・生物科学科の環境科学コースに所属し、専門教育科目「環境公衆衛生学」、「環境生体応答学」、学科の共通科目「分析化学」などの授業、及び卒業研究の指導を担当している。

教育の理念

単なる基礎・専門知識の提供だけでなく、講義から得られた知識が卒業後こういった分野でどのように役立つのか、国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けてどうつなげていくのかなども事例を加えて説明し、勉学の重要性を理解させ、SDGs マインドを持つ人材を育成したいと意識している。

また、関連論文の学習及び論文の要約と感想文などの提出にも比重を置き、これらのプロセスを通して、実践的な知識を吸収させるとともに、それらを活用した創造的思考力、問題解決力および表現力を育成して、能動的学習を目指す。

教育の方法・方針

- ① 独自で作成した授業資料を使用して、さらに、授業の参考資料として、毎年出版される「国民衛生の動向」の最新データに基づき、国民衛生を巡る環境の変動状況や施策の動向などを正確に把握・理解してもらい、現状分析力・課題発見力を養う。また、授業内容関連の学術論文を学習させ、課題を課することにより環境分野の研究動向・方法などを把握させる。
- ② 授業の初めに具体的な学習目標を提示し、何を学ぶべきなのか、どこを目指すべきなのか、SDGs の目標と紐付けることはできるのかを理解してもらい、学生自身がその目標を達成できたかを客観的に判断することが可能となり、学習へのモチベーションを高めさせる。
- ③ 授業の最後では、達成度確認小テストを実施し、次回の授業の最初には、前回の小テスト内容について解説を行い、授業内容をより深く理解させる。
- ④ 卒業研究・修士・博士における研究では、実験スキルの向上や研究成果を求めるだけでなく、週1回のセミナーで研究進捗状況および関連論文（和文・英文）の抄読発表や質問などを通してプレゼンテーション力・議論展開力を向上させるよう心がけている。また、ゼミ室の全ての修士・博士学生には研究成果を英文論文でまとめ学術誌へ投稿するようを求め、1年目から英文論文の作成・投稿に関する指導を行い、英文論文の読解と作成を繰り返して練習させ、英論文に対する苦手意識を減らすよう注力している。

教育の成果

2023年、2024年の授業アンケートの結果では、「授業に満足・ほぼ満足」、「授業に対する教員の意欲が感じられた」と答えた学生が概ね9割以上であった。

今後の目標

今まではグループワークの取組みがあまりなかったので、今後このような機会を意識的に設

けて、様々な視点を持つ学生同士が考えを共有しあうことで、発想力の向上につながることを期待する。また、グループディスカッションを通じて自己表現力やコミュニケーションスキルを向上させる。

根拠資料

シラバス、授業アンケート結果、ミニッツペーパー、学術誌に掲載された院生の英文論文